

私の推せんする天然記念物

中央構造線の露頭

西南日本の内帯と外帯を分ける大断層も、断層をはさんで西側の岩石が直接接している露頭で、細かな観察のできる場所は意外に少い。私有地でないところでも、道路工事などでモルタルが吹きつけられてしまうことが少なくない。

1. 長野県上伊那郡長谷村美和湖岸

南非持南方の湖岸と、溝口西方の美和湖に突き出た半島の北側および南側で、三波川帯の点紋泥質片岩と領家帯非持石英閃緑岩源のマイロナイトが接する。三番目の露頭は、最近歩道がつけられて、近寄るのが簡単になったし、近いうちに村で観察用の棧敷を用意されるそうである。上伊那地方で中央構造線の露頭が観察されるのは、北から高遠町藤沢北原、高遠町長藤板山、高遠町山室川、美和湖岸のほか、長谷村馬越対岸の三峰川右岸、粟沢川支流の何処かである。粟沢川支流の露頭は、川底に美事に観察されたものが、翌年行ってみると洪水で押し出された土砂に埋まっているということが少なくない。粟沢川上流東岸にはケルソコルが直線上に並んで分杭峠まで続き、断層破砕帯に沿う組織地形である。

2. 長野県下伊那郡大鹿村北川

分杭峠から南へ流下する鹿塩川の支流と、北川南の鹿塩川川床および国道256号の側壁で露頭が観察される。とくに、国道沿いの露頭は幅10数cmの粘土帯をはさんで両側の岩石が道路拡幅工事のあとよく見えていたが、現在はほぼ全部がモルタル吹き付けをされて、粘土帯だけが金網の奥にかろうじて見える程度である。金網の奥では、さわることもしかないし、観察窓としては暗くてほとんど役にたたない。このほか、大鹿村で、中央構造線の露頭が観察されるのは、鹿塩小学校東の沢、河合、下青木および青木川上流の深ヶ沢奥が挙げられる。

3. 長野県大鹿村地藏峠

国道256号線の拡幅(といってもこの部分は実質的には新設開通の)工事で、中央構造線の新露頭ができた(木下, 1982)。工事直後にコンクリートで

被われてしまったが、破砕帯の中の新しい断層であったらしい。この20m南に小規模な露頭がある。

地藏峠から南へ流下するのが上村川で、その東側の支流で日影岩奥、大島河原の北と南で中央構造線が観察される。さらに南の南信濃村では、梅平と此田に露頭がある。

4. 愛知県新城市清井田中部鍛工KK敷地内

1973年工場敷地の切土によって現われた中央構造線の新露頭である(池田ほか, 1974)。下盤は破砕された三波川帯の黒色片岩で、上盤は破砕された新城石英閃緑岩である。工場裏の露頭は、最小限の土止め工事で保存された。

この近くでは、豊川本流(寒狭川)と宇連川の分流点から本流を約1.5km遡った新城市有海の河岸のほか、新城市内では豊川右岸の支流、五反田川、連吾川、宮前川、半場川に沿って中央構造線の露頭が知られる(池田ほか, 1974)。

山梨県南巨摩郡早川町新倉の糸魚川—静岡構造線

早川へ西から合流する内河内川を100mさかのぼった左岸の大露頭。N26°W, 47°Wの断層の上盤は瀬戸川帯の粘板岩で、侵食で削られ、下盤の礫形山亜層群の緑色凝灰岩が高さ約30mにわたって露出する美事な断面層。

赤石山地東縁では、甲斐駒—鳳凰花崗岩・焼地藏花崗岩が、中新統の桃の木層へ衝上する境界面としての糸魚川—静岡線の露頭は数ヶ所で知られる(赤石団研グループ, 1968)。早川沿いには、新倉と同様の糸魚川—静岡線が、北の西山温泉付近から、南の春木川羽衣まで9ヶ所で観察される(小山, 1984)。静岡県でも竜爪山の北東で、前期中新世の竜爪層群の粗面岩と後期中新世の静岡層群の砂岩・泥岩互層が30~40°W傾斜の断層で接する糸魚川—静岡線が黒川林道沿いに観察されるが、アプローチが容易で、天然記念物として保存するのがもっとも適当な露頭は、やはり新倉であろう。

(信州大学理学部 山田哲雄)